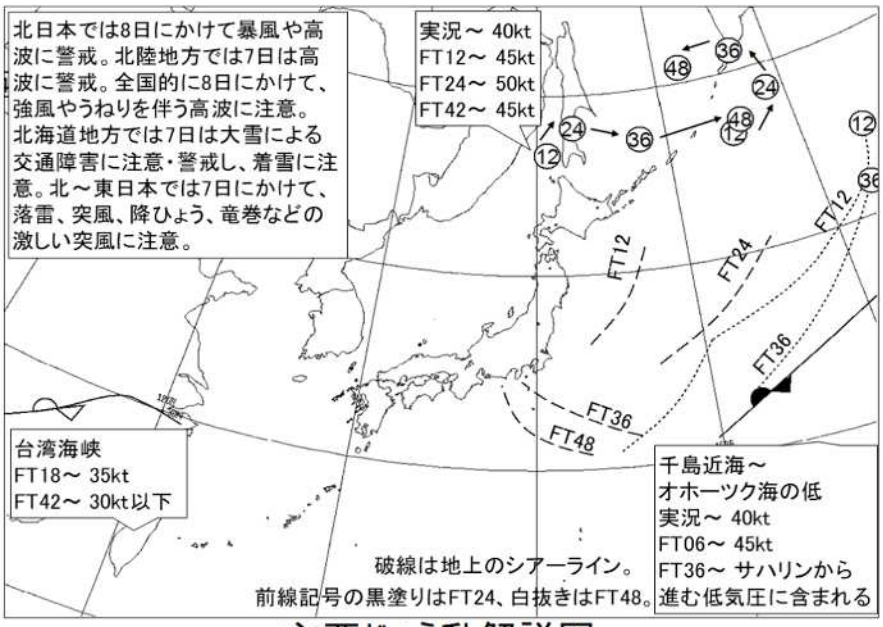
短期予報解説資料　２０２６年１１月６日１５時４０分発表

気象庁

１．実況上の着目点

① 発達中の低気圧が千島近海を北東進。台風第31号は6日9時に日本の東で温帯低気圧に変わり、日本から遠ざかっている。
② 寒冷渦が中国東北区を東南東進。寒冷渦からのびる500hPa 5400m付近のトラフに対応した低気圧が日本海北部を発達しながら北東進。下層寒気の先端に対応するシアーラインが低気圧の南にのびて、本州付近を東進中。西～北日本の日本海側で強い雨を解析、北日本で雷を検知。
③ バイカル湖付近の高気圧が東シナ海に張り出している。高気圧の張り出しや、①②の低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなっている影響で、強い風が吹いており、全国的に波が高く、しけている所がある。



主要じょう乱解説図

２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の低気圧は、6日は急速に発達しながら千島近海を北東進。1項②の低気圧も7日朝にかけて急速に発達しながらサハリン付近に進んで寒冷渦の直下に入り、8日にかけて千島の東に進む。1項②のシアーラインは6日夜にかけて東～北日本を通過する。これらの低気圧と1項③の高気圧との間では、7日にかけて西高東低の冬型の気圧配置が強まり、8日も北日本を中心に西高東低の気圧配置が残る。このため、非常に強い風が吹いて大荒れとなり、波が高くなり大しけとなる所がある。北日本では8日にかけて暴風や高波に警戒。北陸地方では7日は高波に警戒。1項③の高気圧の南縁の吹送距離の長い東よりの風の影響や1項①の台風から変わった低気圧からのうねりの影響で、波が高くなる所がある。全国的に8日にかけて、強風やうねりを伴う高波に注意。
② 6日は、2項①のシアーライン前面の下層暖湿気と上層寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。7日は、500hPa 5520～5640mで −21℃以下の寒気を伴うトラフが東～北日本を通過し、北日本には850hPa −9度以下の寒気が流れ込み、地上の気圧の谷が東～北日本を通過する。下層寒気の影響で、北日本では大雪となる所があり、東日本でも山地を中心に雪の降る所がある。また、上空トラフや寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。北海道地方では7日は、大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪に注意。北～東日本では7日にかけて、落雷、突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。北～東日本では上層トラフや地上の気圧の谷の影響で、断続的に雨や雪が強まる所があることにも留意。

３．数値予報資料解釈上の留意点　総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

４．防災関連事項［量的予報等］　① 雨量(18 時からの 24 時間)：多い所(100㎜ 以上)はない。② 降雪量(18 時からの 24 時間)：北海道 40、東北 30㎝。③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・北陸6、その他広い範囲で 3～4m。**５．全般気象解説情報発表の有無**　発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。